令和５年度　学校自己評価（年度末）

基本方針　安全・安心で生徒職員ともに元気な学校づくり
ＳＤＧｓの理念を踏まえて、生徒の長所を引き出し地域社会に貢献する学校づくり

重　点　目　標	具　体　的　目　標
1　基本的生活習慣を確立させるとともに、粘り強い指導で規範意識の醸成を図る。 2　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、基礎基本の学力定着を図る。 3　社会の担い手となるために、キャリア教育の一層の充実を図る。 4　部活動や地域活動などへの積極的な参加を促すとともに、外部人材の活用や地域貢献を図りながら、本校の取組を中学校や地域に積極的に発信する。 5　教職員間のコミュニケーションや連携を図り、多忙化解消や不祥事防止に努める。	(1) 生活指導 規範意識の醸成、明るく元気な集団の育成、厳しくも暖かく粘り強く ①基本的生活習慣の確立　②元気なあいさつ・返事 ③ルールの遵守、マナーの向上、ＴＰＯに応じた行動の確立、丁寧な言葉遣い ④身だしなみ指導の徹底 ⑤保護者との早めの連携 ⑥生徒の動向、多様化する生徒への対応の充実 (2) 学習指導 基礎基本を徹底し、自ら学び、自ら高める態度を育成する ①授業規律の徹底　②授業力の向上、授業改善　③家庭学習の定着 ④「総合的な探究の時間」の指導プロセスの明確化とプログラム化 ⑤ＣＯＲＥハイスクールネットワーク事業による教育課程の一層の充実 ⑥スクールエンジンの運用による学校業務の円滑化 (3) 進路指導 自分の持ち味を知り、夢を実現するための努力をする ①３年間を見通したキャリア教育の推進 ②「社会の担い手となること」を基本とした就職指導の充実 ③進学指導の充実と大学入試改革の研究 (4) 部活動・特別活動・地域貢献活動 心と身体の鍛錬、成就感と達成感を体感 ①生徒の実態や活動状況を踏まえた部活動の充実 ②生徒自ら参加する意識づくりと感動ある行事づくり ③生徒自らの企画運営による生徒会活動、委員会活動の充実 ④ボランティア活動等の地域連携・地域貢献の推進 ⑤地域コンソーシアムの構築と外部の人材・組織の活用 (5) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害の防止 ①職員の和による強固な協力体制 ②タイムリーな報告・連絡・相談による情報の共有化と業務の効率化 ③在校時間の縮減、ストレス解消、余暇時間の確保と活用による健康管理 ④日々の意識と声かけによる不祥事の防止 (6) その他 ①効率的・効果的な環境美化 ②積極的な情報発信（ホームページ、インスタグラムのタイムリーな更新）や地域への広報 ③知多半島内の中学や地域との連携の推進 ④同窓会との連携

担当	重　点　目　標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
総務	①ＰＴＡ活動をより充実、活性化させる。	ＰＴＡ活動の様子を保護者に向けて積極的に発信する。	B	・役員会、委員会は出席いただけた。 ・夏の体験型研修は、参加者が少なかった。来年度は早くから募集をする。
	②内海高校の魅力を高め、発信する。	きめ細やかな情報発信をしていく。	A	・ホームページやインスタグラムで発信できた。ホームページが重くなるので、生徒の様子の発信はインスタグラムで行うこととする。 ・学校案内をより見やすくなるよう作成中である。
教務	①落ち着いた学習環境を作り、基礎基本の定着を図る。	授業規律の確保に努め、生徒が落ち着いて授業に向かう環境を作る。 生徒の学習意欲を喚起する内容の授業や課題を設定する。	B	・授業中の私語や居眠り、忘れ物など授業規律に反する事項があった場合は教科担当が記録し、違反の数に応じて指導を行った。１学期は違反を指導される生徒もいたが、２学期以降は落ち着いた環境となっている。生徒の学習意欲を高めていくことが今後の課題である。
	②新しい教育課程に対応した教育活動の円滑な実施を図る。	観点別評価の円滑な実施のためのシステムをつくる。 校務支援システムを有効的に活用し、出欠・成績の管理を行う。	B	・今年度より、観点別に点数を入力するだけで合計の評点や観点別評価（A、B、C）が自動で計算できるようシステム運用の変更を行い、成績処理業務の軽減となった。来年度より、欠課時数の管理も校務支援システム上で行えるよう検討していく。
生徒指導	①基本的生活習慣の確立を図る。	欠席・遅刻を減少させる。 授業に集中できるよう体調管理を意識させる。	B	・コロナ禍から日常生活を取り戻し、欠席や遅刻は減少傾向にあるものの、一部生徒が安易に欠席や遅刻を選んでしまう傾向がある。ラーケーションなど欠席に対する考え方が変わっていくなかでも、基本的生活習慣を確立する大切さを伝えていく。
	②ルールの遵守、マナーの向上を図る。	ルール・マナーを遵守し、ＴＰＯに応じた行動ができるよう促す。	A	・校内だけでなく、校外でもマナーが向上していると感じる。校則の見直しに生徒会を積極的に参加させることが課題である。
	③学校行事、部活動、地域貢献活動の活性化と充実を図る。	生徒が充実感・達成感を得られる工夫をする。	A	・球技大会の種目を生徒会が中心となって検討した。生徒数が減っている中でも行事等の活動は活発になっており、一人ひとりが主体的に活動へ取り組んでいる。
		部活動への参加率向上を目指し、やめさせない工夫をする。	B	・生徒数の減少に伴ってどの部活動も所属人数は減少しているなかでも、活発に活動している。今年度は所属生徒が途切れた弓道部を休部とし、その他部活動がより活発に活動できるようにした。
	④安心安全な学校生活を推進する。	いじめを防止するため、組織的に対応する。	A	・いじめ・不登校対策委員会を中心に、生徒情報を密に交換し、いじめ事案を未然に防いでいる。「いじめはどこでも起き得る」という認識のもと、自己肯定感や所属感を高めるような予防的な取り組みを充実させていく。

		多様化する生徒への対応を推進する。	B	・学年や保健厚生部と連携し対応することができた。コロナ禍を経て一層多様化する生徒に対応するために行事や校則、取組みなどアップデートしていく。
進路指導	①進学指導･就職指導を充実させる。	進学･就職両面において、生徒の基礎学力の向上の工夫と教員間の情報の共有化を図り、適切な指導ができるようにする。	A	・進学指導として、希望校への合格を目標に補習や対策講座を実施した。また、補習と外部の模擬試験を連携させ、学習をすれば成果が出るということに重点を置き、基礎学力の向上を図った。今年度は14名全員が希望校に合格した。 ・就職指導として、教員間で事業所に関する情報共有を図り、生徒の受験先の検討と合格への指導を行った。また、３年生全員に対してＳＴ後のテストや週末課題を課し、基礎学力の向上を図った。今年度は、１次内定率が93%であった。
	②低学年から進路意識を持たせる。	進路行事を積極的に活用する。	B	・インターンシップ、大学や企業の見学などを通じて、低学年から進路意識を持たせるようにした。特にインターンシップについては、充実した体験となるように、事前に、挨拶やマナー、時間厳守などの大切さを重点的に指導した。参加生徒（１年21名、２年27名）はそれぞれの事業所（14箇所）で概ね良い評価をいただいた。 ・今年度は、愛知県と美浜町商工会議所が開催した、産学連携地域活性化事業に１年生が参加した。参加した生徒は地元企業を知り、進路について考える良い機会となった。今後もこうした事業を積極的に活用していきたい。
保健厚生	①ボランティア活動の継続と充実を図る。	ボランティア活動を充実させる。	A	・地域の清掃活動では海岸清掃と学校周辺の清掃を行った。大地の丘ボランティアでは、コロナ改善のように入居者の方たちと直接交流できるようになった。 ・高校生ボランティアアワードでは、UFFの生徒たちが主体となってポスターを作成し、発表することができた。 ・今年度は南知多町防災危機管理室と内海山海防災連絡協議会と連携し、黒潮祭や全校避難訓練、高校生防災セミナーの発表会などで防災に関する知識を学んだり発信したりすることができた。
	②生徒委員会活動の充実を図る。	美化委員会の活動で生活環境に対する意識の向上を図る。	A	・美化委員を中心に、校門の花壇に季節の花を植えて、除草、水やりの管理を続けることができた。 ・美化委員を中心にして清掃道具の点検を行った。また、保健厚生部倉庫の整理を行い、物品の管理を行いやすくした。

		保健委員会の活動で自らの身体や、健康情報に関心をもたせるように工夫する。	B	・数回ではあるが、保健委員作成の保健だよりが配付できた。 ・学校保健委員会では、学校歯科医の助言をいただいたことにより、本校の現状と改善方法を周知できた。
	③相談活動の充実を図る。	スクールカウンセラーと連携し、相談活動を行う。	B	・学年団と連絡を密にして、心配な生徒にカウンセリングを受けさせることができた。 ・カウンセラーの指導の下、専門医との連携を依頼することができた。
1年	①規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立を図る。	ルール・マナーを守らせる。	A	・９月に行われた野外活動や 12 月の黒潮デイで日間賀島を訪れた際に、ルールやマナーを守った行動を見ることができた。
		生活リズムを整えさせる。	B	・GW、夏休み、冬休みといった長期休みに毎回生活記録簿の課題を実施し、それをもとに面談で確認した。生活リズムの乱れている生徒が多いが、反省と改善につなげている生徒を多く見ることができた。
	②学習習慣の充実を推進する。	提出物・課題の提出期限を守らせる。	B	・定期考査や長期休みの課題期限を守れていない生徒は減ってはきたが、全員提出には至らなかった。 ・その他の提出物については概ね期限を守ることができた。
2年	①進路実現を意識した行動を推進する。	自己理解、他者理解を深める。	A	・修学旅行においては実行委員を中心に生徒を中心に行事を進めることが出来た。 ・生徒同士のコミュニケーションも増え、他者理解につながった。
		規範意識の高揚、皆勤率の向上を図る。	A	・皆勤生徒は 21 名であり、昨年の 16 名から増加した。 ・今後も皆勤についての意識を高め、指導を続けていく。
	②コミュニケーション能力の育成を図る。	ＴＰＯに応じた言葉遣いを意識付けさせる。	B	・修学旅行をなどを通じてＴＰＯに応じた言葉遣いを意識付けられた。
3年	①進路の実現を図る。	基礎基本を大切にし、基礎学力の向上を図る。	A	・年間で週末課題を設定し、計画的に生徒に取り組ませた。また、その週末課題の内容から帰りのＳＴ後に 10 分程度の小テスト形式の学習会を行った。取り組む姿勢も良好で、生徒の成長を感じることができた。
		進路意識を高めさせ、進路指導を充実させる。	A	・生徒一人ひとりに応じた進路実現に向けた課題を取り組ませた。多くの教員の生徒への声掛けにより、自分の課題に集中して取り組ませることができた。卒業後もそれぞれの進路先での活躍に向け、声かけや生活指導を行った。
	②信頼される社会人として必要な能力や習慣の育成を図る。	皆勤率の向上を図る。	B	・昨年度より進路実現に向け前向きな生徒が多く、皆勤を意識していた。しかし一方で、欠席が多い生徒が固定化されてきている。

				・皆勤の人数は 19／60 人となり、例年並みとなった。
		身だしなみルールの徹底を図る。	B	・ルールを故意に破る生徒はほとんど見られないものの、だらしなさから身だしなみの崩れる生徒が見られた。しかし、卒業が近づくにつれ、教員からの声掛けが無くても身だしなみを気にする生徒が増えた。
		コミュニケーション能力の育成を図る。	A	・進路意識の向上により、心のこもった挨拶ができる生徒が増えていった。 ・人間関係のトラブルが激減した。自分を上手く表現し、他者を思いやる生徒が増え、円滑なコミュニケーションが行われていた。